

8 / 5~8

早稲田大学学生が自転車合宿授業のため来町



学部での主専攻とは別に、多様な学びの機会として設けられたスポーツ実技科目の一つです

早稲田大学グローバルエデュケーションセンターは、紫波自転車競技場などを会場に今年で30回目となる自転車合宿授業を開催しました。学生や教員約30人がロードやトラックで自転車競技を体験。政治経済学部2年の隈元貴寛さんは「紫波町は自然豊かで、あいさつを返してくれたり、自転車をよけてくれたりと気遣いを感じました」と印象を話しました。紫波総合高校出身で、ソウルオリンピックにも出場し、プロ選手時代は紫波町を拠点に活躍した講師の佐々木一昭さんは「毎年町に帰って来ることを楽しみにしています。多くの生徒に経験させたい授業なので、50回を目標に継続したいです」と今後の展望を話しました。

8 / 7

夜の明かりに集まる虫を観察



ナイトトラップにかかった虫を虫眼鏡で観察する子どもたち

NPO法人片寄こどもクラブ(川村真奈美代表)と志和公民館(松田美智子館長)は片寄こどもの家でキッズスクールを開催しました。参加した親子20人は、カゲロウやアオシヤク、ガガンボなどの虫を興味津々の様子で観察。講師の澤口たまみさんと依田一裕さんから虫の名前や特徴を熱心に聞いて学びを深めていました。両親と妹と一緒に参加した片寄小学校2年の杉浦仁恵さんは「虫がとても好きなので参加しました。今日はカメムシやカゲロウをたくさん見つけました」と笑顔でした。

8 / 14

幼児からシルバーまで受け継がれる佐比内金山太鼓



息の合った演奏を披露した佐比内小4~6年生

第29回佐比内金山祭が佐比内小学校のグラウンドで開催されました。結成30周年を迎えた今年は約700人が来場。地元住民による出店が立ち並び、お祭り気分一色の会場内に幼年、小学校、中学校、シルバー、親子、若衆の各年代が力強い音色を響かせました。今年は民謡歌手の漆原栄美子さんによるショーも開かれたほか、友情出演の津軽三味線奏者の藤原翼さんと佐比内金山太鼓若衆の共演も行われました。親子太鼓に参加した蒲生麻衣子さんと斗真君(同小3年)は「みんなで一緒に太鼓を叩くのが楽しく、外での演奏は気持ちよかったです」と演奏を楽しんだ様子でした。

8 / 9

登場人物の気持ちになりきり有線放送劇に挑戦!



声だけでなく体も使って登場人物の心境を表現した生徒たち

今年で4回目となる有線放送劇体験教室が矢巾町のJAいわて中央矢巾有線放送センターで開かれました。紫波町と矢巾町の中学生8人が参加。発声練習を行い、登場人物の性格や脚本を分析した後、熊谷義昭さん(水分地区)が脚本を書いた「隠れ蓑と隠れ笠」の収録に挑戦しました。紫波第一中学校2年の小田嶋花梨さんは「将来の選択肢を広げるために参加しました。間の取り方やアクセントをつける場所が難しかったけど、恥ずかしさや緊張もなく、みんなと一緒に楽しく取り組みました」と自信を見せていました。

8 / 26

災害に強い町づくりを目指して 彦部地区で県総合防災訓練



盛岡地方気象台の方々には近年の災害事例や気象情報の活用方法について講演しました

県総合防災訓練が彦部小学校で行われ、彦部・星山小学校の児童および彦部・星山地区の住民約250人と消防団などの関係者約130人が参加しました。北上川の氾濫を想定し、ヘリコプターやバスでの広域避難訓練や土のう作り、心肺蘇生訓練などをローテーションで実施。訓練の前日に北上川が氾濫危険水位まで上昇したこともあり、参加者は真剣な眼差しで訓練に励みました。星山地区の田畑正和さんは「昨日の大雨もあり、今回の訓練の大切さやありがたさを実感しました。自治公民館などで地域の皆さんにもこういった訓練を伝えたいです」と意識を高めていました。

8 / 16

志和地区で夏の恒例行事



滝名川を流れる精霊舟を多くの人々が見守りました

志和八幡宮氏子青年会(高橋一弘会長)は滝名川に架かる志和橋付近で舟っこ流しを開催。舟は例年新天神橋付近から流されますが、当日は滝名川の流れが速く、志和橋上流で川に入りました。初盆を迎えた26人の名を記した和紙が飾られた2隻は、志和橋下流の中洲で火が放たれました。同日、志和橋付近では志和町商工業振興会(大沼啓之助会長)主催の第37回志和町夏まつりも開催。会場には屋台が並び、虹の保育園年長児によるちびっこさんさ太鼓の披露やカラオケ大会、花火の打ち上げもあり、多くの人でにぎわいました。



キラッと★ちゃ・ちゃ・ちゃんねる



このコーナーでは毎月、町の子育て支援情報など、「子ども」に関する情報をお伝えしています。
今回は、町内の児童施設で、日々の体験の中からさまざまなことを学び、「生きる力」の土台となる力を育てている子どもたちの様子が垣間見える一場面を紹介します。

育ちの芽 vol.1

ある日、トイレに行った後のAくんとBくん。いつもは、先生にズボンを履かせてもらっている2人ですが、この日はAくんが「やってみたい」とズボン履きに挑戦することになりました。最初、ズボンに足を通して「できた!」と笑顔を見せたAくんでしたが、なんと両足とも片方に入っていました。「何かがおかしい…」と気付いたAくんは、もう一度ズボンを脱いで再挑戦(写真1)。ゆっくりと確かめるように足をズボンに通し、初めてのズボン履きに成功しました。最初は失敗したけれど、諦めずに最後まで1人でやり遂げたAくん。そんな頑張るAくんの様子を、先生と最後まで見守っていたBくんも、拍手をして一緒に喜びました(写真2)。～虹の保育園・1歳児クラスから～

町の取り組み 子どもたちが心豊かに育つ乳幼児期の環境づくりを目指して

現代社会の中で、子どもたちが将来に向かって夢や希望を持って成長し、より主体的に生きていくためにはどのような力が必要か。近年の研究から、幼児期において「非認知能力(目標に向かって頑張る力、人とうまく関わる力、感情をコントロールする力など)」を育むことがとても重要だと明らかになりました。このことを踏まえ、国は今年3月、子どもたちが非認知能力を育てていくための共通の考え方を盛り込み、幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領を改訂しました。

町でも昨年度から、どの子どもも質の高い幼児教育・保育を受け、心豊かに育つことができるよう、保育所・児童館・認定こども園・幼稚園の先生方が集まり、子どもたちの「生きる力」の芽を育てるために必要な経験や環境、大人の関わり方などについて研究しています。



写真1

写真2

自分でズボンを履くことに挑戦するAくん(右)と、見守るBくん(左)
(吹き出し内のカッコは、子どもに育てられている具体的な気持ちを表しています)

※今後も不定期で、各児童施設での子どもたちの様子を紹介します。